

第2章 現行計画の取組と評価

2.1 前期計画の概要

(1) 基本方針と施策体系

前期計画では、だれもが安全に便利に楽しく自転車が利用できるとともに、ひとや環境にやさしい自転車を愛するまち、「自転車のまち宇都宮」の実現を目指して、だれもが自転車を“安全に”“快適に”“楽しく”“健康とエコに”使えることを目標に4つの施策の柱とそれぞれの取組方針を設定し、目標を達成するための様々な施策事業を位置付けました。

基本方針

① 交通手段としての利便性を高める

自転車を交通手段の一手段として位置付けた現行計画の施策事業を推進

- 走行環境の改善
- 利用環境の改善
- 他の交通手段との連携強化 など

② 自転車でまちの魅力を高める

社会情勢の変化などを考慮して、新たな観点から施策事業を検討

- 健康度アップ・環境度アップ
- 新たなライフスタイルの提案
- 自転車目的の来街者を増やす など

施策体系

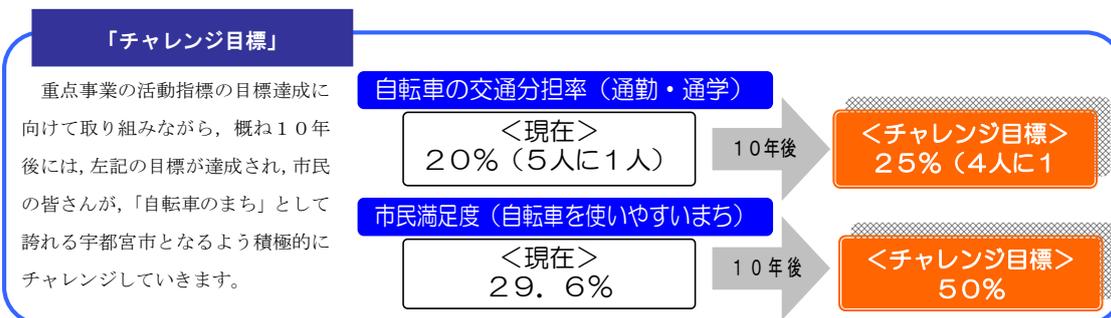
目標	4つの柱	施策事業	具体的な取組
「自転車のまち宇都宮」の実現 だれもが安全に便利に楽しく自転車が利用できるとともに、ひとや環境にやさしい自転車を愛するまちを目指します。	目標Ⅰ だれもが“安全”に自転車が使える ～安全性の向上～ ・自転車の走行にとって安全・安心な道づくりの推進 ・自転車のルール・マナーを守るができる人づくりや自転車の安全を守る環境づくりの推進	(1) 自転車走行空間の確保 (2) 安全啓発活動の実施 (3) 安全を守る環境づくりの推進	◎新たな自転車走行空間の整備【拡】 自転車サインの整備【拡】 ◎交通安全教室等の継続・拡充【拡】 広報啓発活動の継続・拡充【拡】 安全安心な自転車用具の普及促進【拡】 交通安全施設の設置【継】 放置自転車対策の継続・拡充【拡】
	目標Ⅱ だれもが“快適”に自転車が使える ～快適性の向上～ ・自転車利用者が休憩できる空間の創出や公共交通（鉄道、バス、タクシー）との連携など、自転車利用がにつながる環境づくりの推進 ・自転車の特性を活かす利便性の高い駐輪場の整備	(1) 自転車利用のネットワーク化 (2) 新たな駐輪場の整備	◎休憩スポットの創出（自転車の駅）【新】 公共交通との連携強化【拡】 ◎鉄道駅周辺への駐輪場整備【拡】 バス停付近への駐輪場整備【拡】 短時間駐輪スポットの整備【新】
	目標Ⅲ だれもが“楽しく”自転車が使える ～観光やスポーツの推進～ ・自転車に乗りたくなるような環境づくりの推進 ・観光との連携やサイクリングスポーツの振興による新たな自転車の魅力づくりの推進	(1) レンタサイクルの拡充 (2) スポーツ・観光等との連携 (3) プロスポーツとの連携	◎観光レンタサイクルの導入【新】 コミュニティサイクルの拡充【拡】 ◎モビリティセンターの整備【新】 観光・サイクリングルートの創出【新】 ◎自転車マップの作成【新】 サイクリングロードの整備【拡】 商店街等との連携策の実施【新】 ジャパンカップのPRの実施【継】 自転車の普及促進イベントの実施【新】
	目標Ⅳ だれもが“健康とエコ”に自転車が使える ～健康の増進と環境保全～ ・市民の健康増進や地球にやさしいライフスタイルの推進	(1) 自転車通勤の推進 (2) 新たなライフスタイルの推進	モビリティマネジメントの実施【拡】 自転車通勤に関する職場環境の改善【新】 ◎自転車モニター事業の実施【新】
	「自転車のまち宇都宮」の推進		「自転車のまち宇都宮」のPR【新】

計画期間中に（一部）実施する事業
 計画期間中に検討し、実施を目指す事業
 ◎ 重点事業
【新】 新規事業
【拡】 拡充事業
【継】 継続事業

(2) 評価指標

前期計画では、施策事業の展開における4つの柱に対して、重点事業の進捗状況を確認する整備延長などの「活動指標」と、施策の効果が市民にもわかりやすくなるよう、自転車利用者の増加などの「成果指標」を評価指標として設定しました。

4つの柱	活動指標（重点事業） 5年後（平成27年度）	成果指標 （経年的に成果を把握）
目標Ⅰ だれもが“安全”に 自転車を使える	<input type="checkbox"/> 自転車走行空間の整備延長 《目標値》 9.6km⇒25.4km <input type="checkbox"/> 交通安全教室等 →宇都宮市交通安全計画で設定	■交通事故件数 市内全体や整備路線の交通事故の変化を把握 ■自転車利用者数 市内全体や整備路線の自転車利用者数を把握 ■CO₂の削減量 上記の自転車利用者数の状況から、自動車からの転換による削減量を推計 ■市民の満足度 自転車施策などに関する満足度を把握
目標Ⅱ だれもが“快適”に 自転車を使える	<input type="checkbox"/> 自転車の駅（休憩スポット）の整備数 《目標値》 36箇所新設 <input type="checkbox"/> 鉄道駅周辺の駐輪場収容台数 《目標値》 7,912台⇒8,512台	
目標Ⅲ だれもが“楽しく” 自転車を使える	<input type="checkbox"/> レンタサイクル拠点・利用者数 《目標値》 4箇所⇒14箇所 31,000人⇒41,000人 <input type="checkbox"/> モビリティセンター利用者数 《目標値》 モデル事業から設定 <input type="checkbox"/> 自転車マップ配布枚数（実績値）	
目標Ⅳ だれもが“健康とエコ” に自転車を使える	<input type="checkbox"/> エコ通勤実施企業数 《目標値》 4企業 ⇒ 10企業 <input type="checkbox"/> 自転車モニター事業参加者数・実施効果（実績値）	



2.2 前期計画の取組状況と評価

(1) 目標Ⅰ「安全」に関する取組状況と評価

① 新たな自転車走行空間の整備【重点事業】

a) 取組状況

自転車ネットワーク路線として設定した75路線の内、自転車交通量などから16路線を優先整備路線として選定し、道路状況に応じた整備を行い、これまでに21.7kmで整備が完了しました。

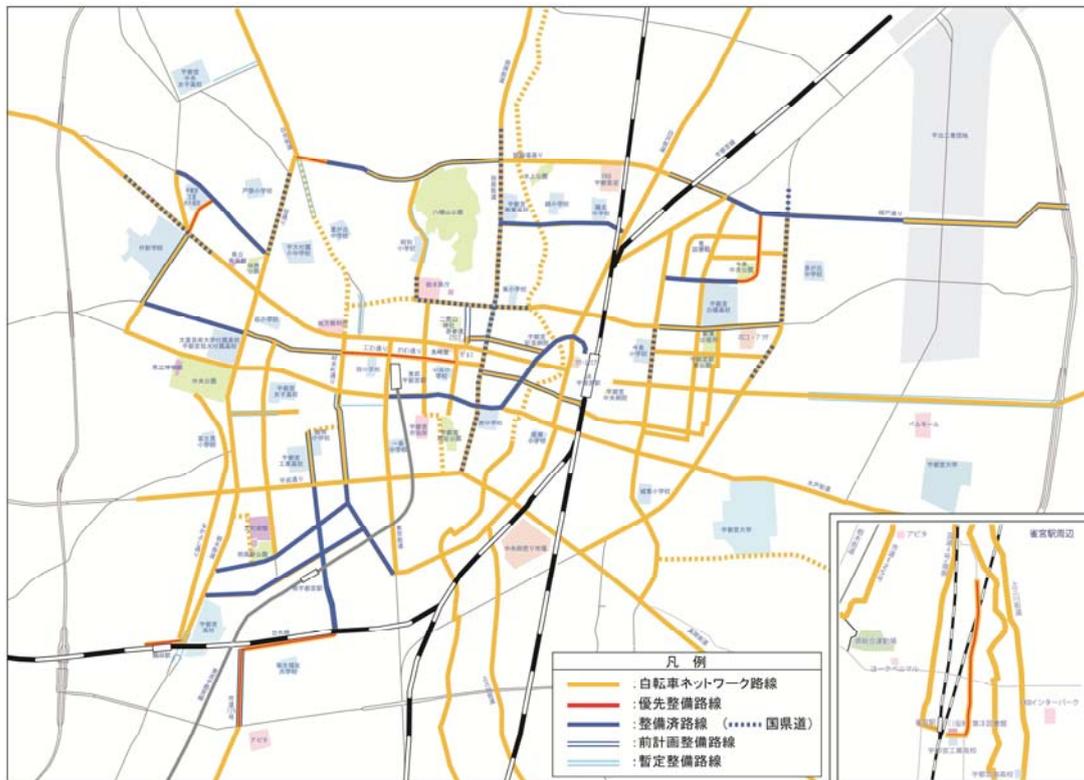


図 自転車走行空間の主な整備実績

【主な整備手法】

○自転車専用通行帯



写真 競輪場通り
(市道28号線)

○自転車歩行車道の分離



写真 いちょう通り
(市道4号線)

○自転車走行位置の明示



写真 国道4号

表 自転車走行空間の整備延長

	整備 年度	路線名	整備手法	延長
1	H22	文星女子高通り	自転車専用通行帯	1,000m
2	H22	岡本駅前通り	自転車専用通行帯	370m
3	H23	越戸通り	自転車専用通行帯	960m
4	H23	上河原通り	自転車専用通行帯等	860m
5	H22	いちょう通り	自転車歩行者道の分離	440m
	H23			160m
	H26			300m
6	H23	大錦橋通り	注意喚起表示	1,100m
7	H24	競輪場通り (今泉新町～国道4号)	自転車専用通行帯	520m
8	H24	競輪場通り (松原3丁目交差点～下戸祭2丁目)	自転車専用通行帯	400m
9	H24	市道3761号線	自転車専用通行帯	600m
10	H24	富士見通り	自転車専用通行帯	900m
	H27		矢羽根(車道混在)	330m
11	H26	西原・宮の原通り	自転車専用通行帯	350m
	H27			650m
12	H27	南宇都宮駅前通り	矢羽根(車道混在)	1,440m
13	H27	旧鹿沼街道	自転車専用通行帯	800m
14	H27	不動前通り	自転車専用通行帯	870m
合 計				12,050m

※一部路線については、計画策定前に整備

b) 評価

【活動実績】（整備延長）

自転車走行空間の整備延長は、目標の25.4kmに対して85%を達成しました。

《目標値》25.4km 《実績》21.7km（達成率85%）

【事故件数】

宇都宮市内の自転車関連事故は減少傾向にあり、H20からH27の6年間で約50%減少しています。本市で継続的に実施してきた自転車走行空間整備が事故減少に寄与したものと考えられます。

表 宇都宮市内 自転車関連事故件数の変化

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H26
件数	837件	723件	627件	530件	558件	504件	421件	429件
比率	1.00	0.86	0.75	0.63	0.67	0.60	0.50	0.51

【整備路線の事故件数・事故割合】

自転車走行空間整備路線の整備前後において、自転車関連事故件数は22件から12件に減少していることから、自転車レーンの整備が自転車と歩行者の交通安全に有効な手段であることが確認できます。ただし、出会い頭などの交差点部での事故の発生割合が高い状況です。

表 自転車走行空間整備路線における整備前後の事故件数及び事故パターン

	整備前		整備後		
	事故件数 (年平均)	構成比	事故件数 (年平均)	構成比	
出会頭	9.80	42.8%	5.23	43.5%	主に交差点部 で発生する事故
右折時	4.88	21.3%	2.89	24.0%	
左折時	3.93	17.2%	3.33	27.7%	
車両単独	2.08	9.1%	0.00	0.0%	
対面通行中	0.54	2.4%	0.57	4.8%	
追越追抜時	0.58	2.5%	0.00	0.0%	
その他	1.08	4.7%	0.00	0.0%	
合計	22.90	100.0%	12.03	100.0%	

※事故件数(年平均)はH20.1~H25.12までの月ごとの事故件数データのうち、各路線の整備前後に発生した自転車関連事故の件数を集計し年換算したもの。便宜上、整備月の事故件数は整備前にカウントした。

c) 課題

整備路線においては、事故が減少し、自転車レーンの整備が自転車と歩行者の交通安全に有効な手段であることが確認された一方で、出会い頭などの交差点部での事故が多いことから、これまで整備に至らなかった交差点部や狭隘な路線についても新たな整備手法を活用し、自転車走行空間の連続性を確保する必要があります。

② 交通安全教室等【重点事業】

a) 取組状況

市内の幼稚園や保育園，小中学校と老人クラブなどの高齢者を対象に，基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを指導する交通安全教室を実施しました。

H23	H24	H25	H26	H27
■宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室				
3校 1,902人	5校 2,131人	7校 3,434人	7校 4,538人	8校 2,867人
■スケアードストレイト方式※等による交通安全教室				
5回 2,644人	7回 5,493人	9回 5,917人	9回 4,574人	14回 8,934人
■子ども自転車免許事業				
70回 4,881人	70回 4,838人	70回 4,830人	70回 4,919人	70回 4,809人
■地域での自転車交通安全教室				
8回 148人	7回 402人	7回 520人	7回 625人	12回 430人
■高齢者自転車教室				
9回 231人	6回 214人	7回 205人	9回 294人	7回 230人
■自転車の安全利用のための街頭指導				
1箇所 32回	7箇所 20回	11箇所 29回	9箇所 40回	10箇所 33回

※スタントマンにより事故を再現し，交通ルールを遵守する大切さを学ぶ事業

b) 評価

【活動実績】（教室開催数）

教室開催数は，「宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室」では目標の16校に対して8校，「スケアードストレイト方式等による交通安全教室」では目標の6回に対して14回で実施しました。

○宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室

《目標値》16校/年間 《実績》8校/年間（H27実績）

○スケアードストレイト方式等による交通安全教室

《目標値》6回/年間 《実績》14回/年間（H27実績）



【アンケート調査】（自転車の交通ルールの認知度，ルール・マナーの満足度）

約7割が自転車の交通ルールを認知しているものの，自転車利用者のルール・マナーに対する満足度は約2割と低い状況です。

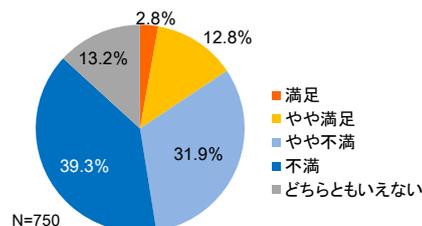
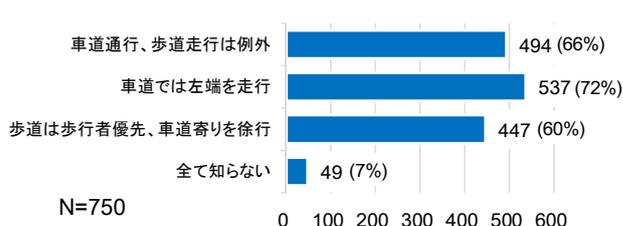


図 自転車の交通ルールの認知度

図 自転車のルール・マナーの満足度

【実態調査】（自転車通行の違反行為）

交通安全教室等により、自転車利用のルール・マナーの向上を図っていますが、自転車通行の実態※として、並進や逆走等による違反行為の割合は依然として約3割存在します。

※平成27年5～6月に睦町交差点付近及び競輪場通りにおいて実施

c) 課題

交通安全教室の実施や道路交通法の改正などにより、ルール、マナーに対する安全意識が高まっていますが、右側走行や信号無視など、ルール・マナーを守らない利用者も見受けられることから、安全意識と安全走行がつながるよう、啓発活動のさらなる充実を図る必要があります。

③ 乗車用ヘルメットの普及促進

a) 取組状況

幼児や高齢者の安全な自転車利用の促進を図るため、交通安全教室等での乗車用ヘルメットの普及促進に向けた取組を実施しました。

○中学生の自転車用ヘルメット着用を義務化（H25～）

○中学生・高校生に対し、自転車安全利用リーフレットを配布し、ヘルメット着用の重要性を周知啓発（32,990枚）

○「交通安全市民のつどい」において、孫から祖父母へのヘルメット贈呈式を実施

○高齢者用ヘルメット配布事業

（県トラック協会から寄贈（398個））

○「自転車安全利用応援店」認定事業※の実施
（道の駅ろまんちっく村など4店舗）

※自転車ヘルメットを着用している自転車利用者に対する割引サービスなどを提供する店舗を応援店として認定し、応援店の情報をホームページ等で積極的にPRするもの。



写真 孫から祖父母へのヘルメット贈呈式

b) 評価

自転車用ヘルメットの着用促進として、「自転車安全利用応援店」認定事業の実施、ヘルメット配布事業など、着用が促進されるよう新規事業を実施し、工夫を加えながら拡充してきた。

c) 課題

交通安全教室等での乗車用ヘルメットの普及促進に向けた取組を実施しているが、ヘルメット着用者は依然として少ない状況です。更なるヘルメットの着用・普及促進に向けて、継続的に周知啓発を行う必要があります。

(2) 目標Ⅱ「快適」に関する取組状況と評価

① 休憩スポットの創出（自転車の駅）【重点事業】

a) 取組状況

サイクリングルート沿線を中心に、公共施設のほか、コンビニエンスストアと連携しながら、簡単な修理等ができる休憩スポット「自転車の駅」を44箇所整備しました。

【施設機能】

- ・自転車修理用工具及び空気入れポンプの無料貸出
- ・スポーツバイク用の駐輪ラックを完備
- ・既存施設の機能としてトイレ、休憩スペース、飲み物の販売など

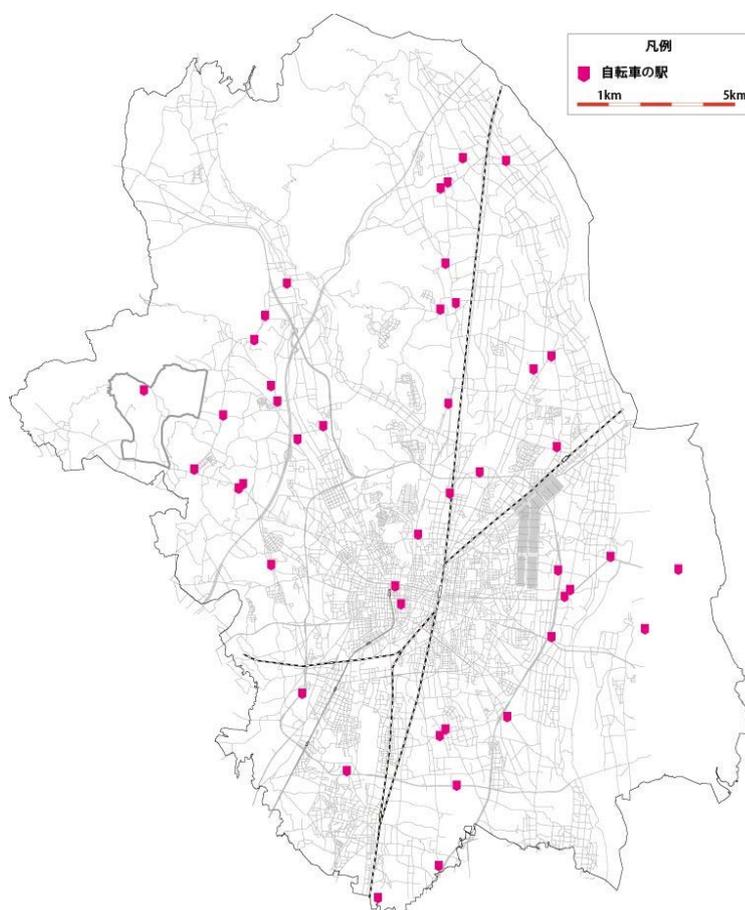


図 自転車の駅設置箇所



図 自転車の駅の配備品

b) 評価

【活動実績】（整備箇所数）

自転車の駅の整備箇所数は、目標の36箇所に対して122%を達成しました。

《目標値》36箇所 《実績》44箇所（達成率122%）

【市民アンケート】（自転車の駅の認知度）

自転車の駅の認知度は、全体で約2割、サイクリングをする方でも約3割と低い状況です。

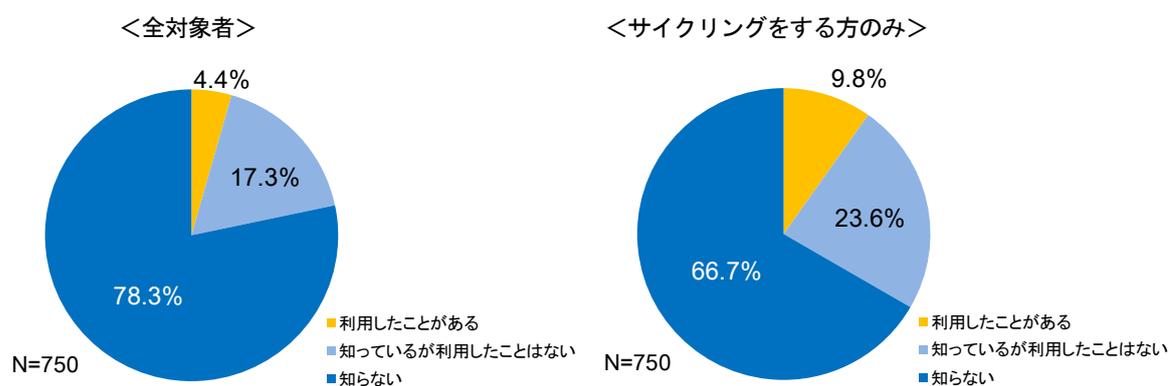


図 「自転車の駅」の認知度

c) 課題

コンビニエンスストアなどと連携しながら、自転車利用者をサポートしてきたところですが、認知度が低いことから、自転車交通量を踏まえながら効果的な場所に設置するとともに、周知・PRを強化するなど、更なる自転車の利用環境の向上に取り組んでいく必要があります。

② 鉄道駅周辺への駐輪場整備【重点事業】

a) 取組状況

駐輪需要を踏まえ、J R宇都宮駅西口における駐輪場拡充やJ R雀宮駅東口における新設、東武江曾島駅東口の移設を行いました。

- ・ J R宇都宮駅西口 : 平成24年度に240台を増設(2,984台⇒3,224台)
- ・ J R雀宮駅東口 : 平成23年度に450台分を新設
- ・ 東武江曾島駅東口: 平成25年度に254台分を移設



写真 J R宇都宮駅西口の増設



写真 J R雀宮駅東口

b) 評価

【活動実績】(鉄道駅周辺の駐輪場収容台数)

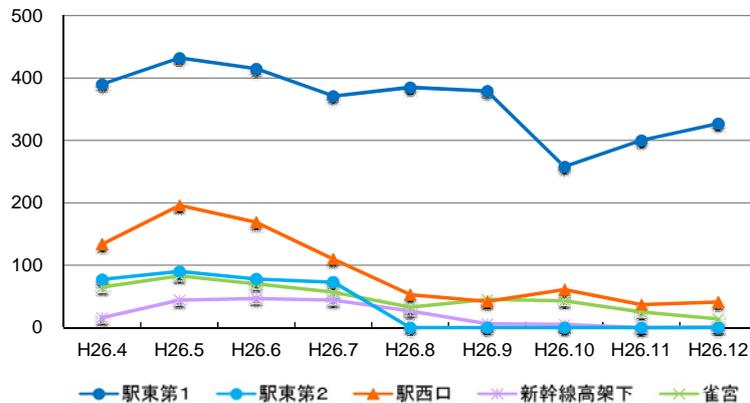
鉄道駅周辺の駐輪場収容台数は、目標の8,512台に対して102%を達成しました。

《目標値》8,512台 《実績》8,692台(達成率102%)

【定期利用待機者】

鉄道駅周辺の駐輪場の利用需要が高く、定期利用の待機者が発生しています。

宇都宮駅東第1が毎月最も多くの待機者が発生しています。また宇都宮駅西口駐輪場は4～7月で待機者が100人を超えています。



※定期利用の待機が発生している駐輪場のみを掲載

※東口第1駐輪場で存在する定期待機者337名(平成27年1月現在)のうち160名(47.5%)は東口第二駐輪場を利用

図 定期利用(自転車・バイク)待機状況

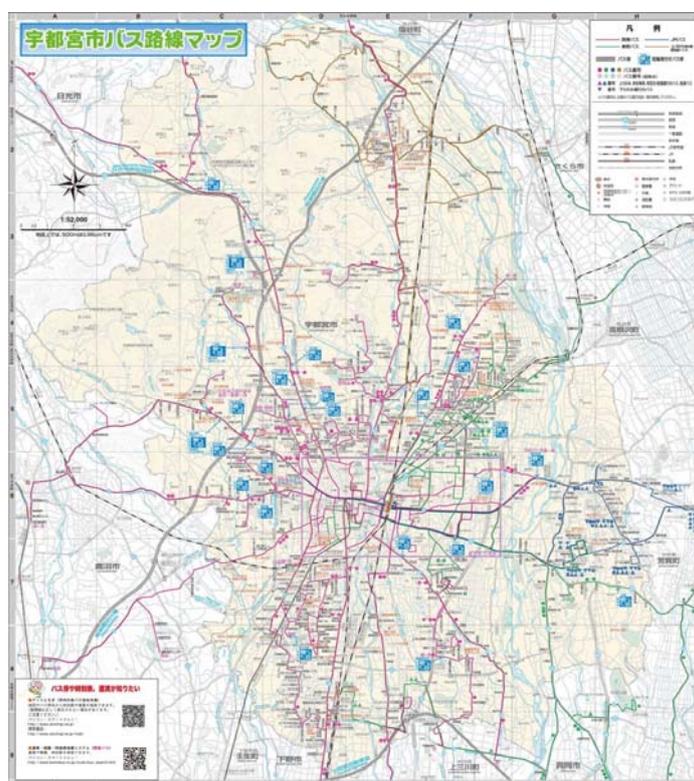
c) 課題

JR宇都宮駅周辺の駐輪場では、自転車、バイクともに定期利用の待機者が発生していますが、拡充にあたっては用地の制約等を考慮して、道路上へのラック式駐輪場の整備や定期枠の空スペースの効果的な活用などを検討する必要があります。

③ バス停付近への駐輪場整備

a) 取組状況

サイクル&バスライドを促進するために、主要なバス路線沿線において、公共施設や民間企業の駐輪場を有効活用し、新たに4箇所を整備を実施しました。



b) 評価

【利用状況】

バス停付近の駐輪場の利用状況として、平均利用率が62%と一定の利用がなされており、サイクル&バスライドの促進に寄与しています。

c) 課題

バス事業者と協議の上、整備の必要性の高いバス停に設置してきたところですが、利用状況や昨年度実施した調査結果を踏まえながら、効果的に整備を進め、自転車と公共交通の連携を図る必要があります。

(3) 目標Ⅲ「楽しく」に関する取組状況と評価

① 観光レンタサイクルの導入【重点事業】

a) 取組状況

自転車を活用した中心部における回遊性の向上や来街者に対するおもてなしの向上を図るため、宿泊施設と連携したモデル事業として、宿泊者を対象に自転車を貸し出す「おもてなしレンタサイクル」を実施しました。

【実施宿泊施設】 6施設

- ・東武ホテルグランデ（5台）
- ・ホテルアーバングレイス（5台）
- ・ホテルデル・ソル（5台）
- ・東花ホテル（3台）
- ・東ホテル（3台）
- ・ホテル東日本（3台）



写真 おもてなしレンタサイクルの状況

b) 評価

ビジネスホテルを中心に利用が定着し、おもてなしの向上が図れたとともに、宿泊施設からも一定の評価をいただきました。

表 おもてなしレンタサイクル利用者数

年度	利用者数	月平均	備考
H22	242人	40人	H22.10～H23.3
H23	1,136人	94人	
H24	1,573人	131人	
H25	1,359人	113人	
H26	1,154人	96人	

c) 課題

これまでの継続した事業実施により、利用が定着してきたことに加え、宿泊施設も継続意向を示していることから、おもてなしレンタサイクル事業を宿泊施設の自主的な運営に移行し、事業を継続します。

② レンタサイクル（コミュニティサイクル）の拡充

a) 取組状況

平成23年10月から、市営駐輪場で実施しているレンタサイクルの貸出場所を3箇所（「JR東口第二」、「JR鶴田駅」、「JR雀宮駅東」）拡充するとともに、利便性の高い電動アシスト自転車を55台導入しました。

b) 評価

【レンタサイクル貸出拠点】

レンタサイクル貸出拠点数は、目標の14箇所に対して50%を達成しました。

《目標値》 14箇所 《実績》 7箇所（達成率50%）

【レンタサイクル利用状況】

レンタサイクルの利用人数は、目標の41,000人に対して111%を達成しました。

普通自転車は利用率が94%（H26）と非常に高く、移動手段の一つとして確立されている一方で、電動アシスト自転車は利用が伸びていますが、普通自転車より稼働率が低い状況です。

《目標値》 41,000人 《実績》 45,707人（達成率111%）

	H23	H24	H25	H26
普通 110台	32,427人	36,981人	38,994人	37,529人 (94%)
電動アシスト 55台	1,850人	5,068人	6,668人	8,178人 (41%)
合計 165台	34,277人	42,049人	45,662人	45,707人

() 内は利用率

【市民アンケート】（レンタサイクルの認知度）

普通自転車6割に対して、電動アシストは3割程度と低い状況です。

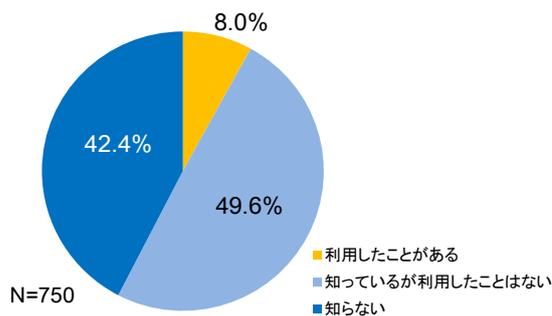


図 市営駐輪場のレンタサイクルの認知度（普通自転車）

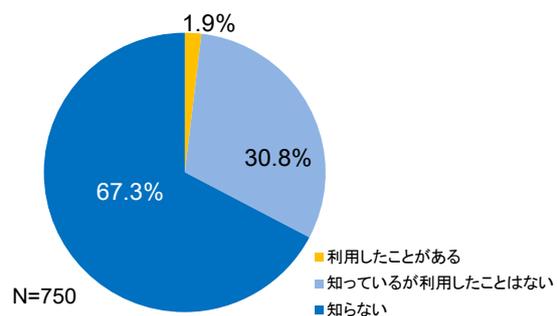


図 市営駐輪場のレンタサイクルの認知度（電動アシスト自転車）

c) 課題

鉄道駅の貸出場所を中心に普通自転車のレンタサイクルが利用されていますが、電動アシスト自転車については、十分に認知されておらず、普通自転車と比較し利用率が低いいため、さらなる回遊性の向上につながるよう電動アシスト自転車の利用促進を図る必要があります。

③ 宮サイクルステーション（モビリティセンター）の整備【重点事業】

a) 取組状況

自転車の利用促進の拠点施設となるサイクルステーションの整備に向けて、平成22年10月からモデル事業として「宮サイクルステーション」を開設したところであり、当該施設の各機能の有効性や必要性などを確認できたことから、さらなる利用者サービスの向上を図るため、平成25年9月から指定管理者制度を導入した運営を開始しました。

<宮サイクルステーションの実施状況>

【施設設備】

休憩スペース、自転車の修繕スペース、更衣室、シャワー、ロッカー、トイレなど

【実施内容】

- ・スポーツバイクの貸出（18台：ロードバイク6、クロスバイク10、ミニベロ2）
- ・スポーツバイクセミナーの実施
→スポーツバイクのメンテナンスの方法やサイクリングでの走行方法を指導
- ・自転車や観光情報の提供 など



写真 宮サイクルステーション

b) 評価

【利用状況】（来館者数・レンタサイクル利用者数）

指定管理者と連携し、サービスを充実させたことにより、来館者やレンタサイクル利用者が増加傾向にあります。

表 宮サイクルステーションの利用状況

	H22※	H23	H24	H25	H26
来館者	3,395人	6,296人	4,725人	5,610人	5,692人
レンタサイクル	335回	883回	602回	852回	1,173回

※H22はH22.10～H23.3の6ヶ月間

【市民アンケート】（宮サイクルステーションの認知度・満足度）

宮サイクルステーションに対する認知度は約5割です。

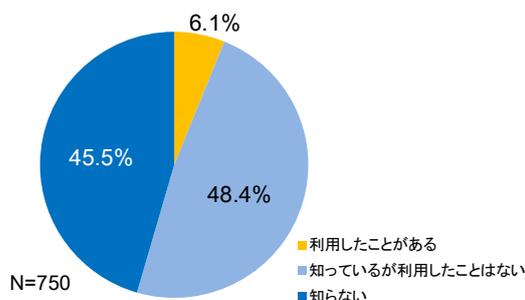


図 宮サイクルステーション認知度

宮サイクルステーションに対する満足度は、「満足・やや満足」の回答が約9割と多くの方が満足しています。

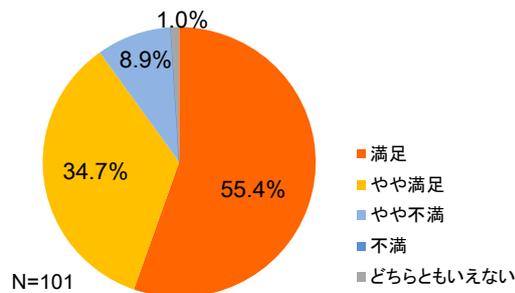


図 宮サイクルステーション満足度

【来街者アンケート】（宮サイクルステーションのサービス拡充希望）

宮サイクルステーションについて、一時預かりやメンテナンスなどのサービス拡充を望む方は約7割と高い状況です。

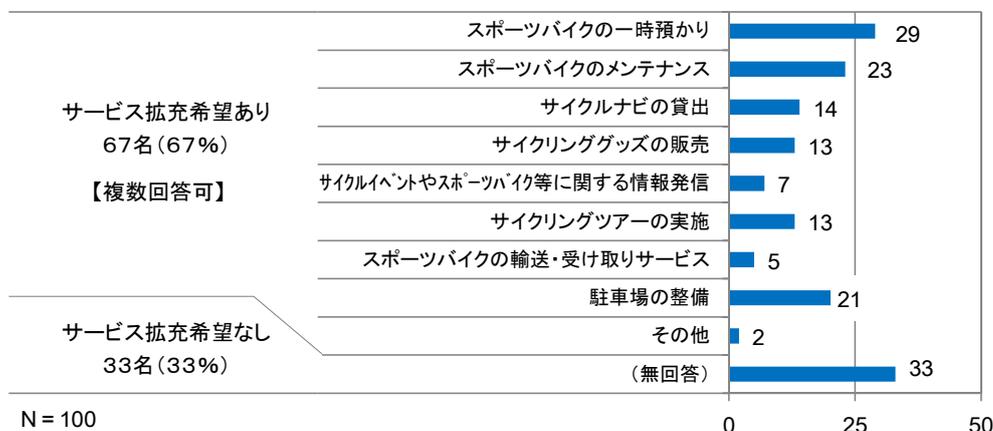


図 宮サイクルステーションに新たに必要サービス

c) 課題

指定管理者と連携しながら、レンタサイクルの利用促進策やセミナーの充実などのサービスの拡充に取り組んできたことにより、利用者が増加傾向であるなど、サイクルスポーツの振興につながっているものの、さらなるサービスの向上が求められていることから、事業の拡充を図る必要があります。

④ 自転車マップの作成【重点事業】

a) 取組状況

主要な観光資源を巡るサイクリングルートやジャパンカップコース，自転車の魅力や安全走行の重要性を伝える宇都宮ブリッツェンのコラム，自転車の安全利用のルールなどを掲載した自転車マップを作成しました。



図 自転車マップ

b) 評価

【構成・配布状況】

年度ごとに作成し，ジャパンカップコースの明瞭化やサイクルピクニックコースの追記など，掲載内容の充実を図るとともに，宮サイクルステーションやサイクルイベントなど来街者の多い施設、機会を中心に効率的に配布しました。

	H23	H24	H25	H26
【構成】	・ 中心部版と郊外部版の2種類を作成		・ 中心部と郊外部を一体化させ作成	
【配布部数】	・ 中心部版 7,000部 ・ 郊外部版 4,000部	・ 中心部版 6,000部 ・ 郊外部版 5,000部	・ 一体化版 11,000部	・ 一体化版 7,200部
【主な配布場所】	・ 宮サイクルステーション，サイクルイベント，自転車の駅，市営駐輪場 等			

c) 課題

市内のサイクリングルートを設定した自転車マップ等で利用促進を図ってきましたが，より広域的な周遊に対するニーズもあることから，サイクリングルートのさらなる拡充に向け，自転車で都市間や観光地がつながるよう周辺自治体などとも協力し，広域的なサイクリングを楽しめる環境をつくる必要があります。

⑤ サイクリングロードの整備

a) 取組状況

サイクリングロード整備の手法や優先度等を定めた「サイクリングロード整備基本計画」を策定するとともに、田川・山田川及び鬼怒川サイクリングロードの整備に着手しました。

<基本計画の概要>

【目的】

本計画は、長く、連続した快適な自転車利用環境を効果的、効率的に創出し、自転車ネットワークの強化を図ることにより、自転車を活用したまちづくりをさらに推進するため、サイクリングロードの整備を計画的に進めるべく、整備の具体的な進め方を明らかにするものです。

【整備の優先度】

各未整備区間の優先度を、以下のとおり設定しました。

- 優先度 1 : ①「田川・山田川連結区間」
②「鬼怒川左岸区間」
- 優先度 2 : ③「姿川新設区間」
④「鬼怒川右岸北伸区間」
⑤「山田川北伸区間」
- 優先度 3 : ⑥「田川北伸区間」



b) 評価

策定した基本計画に基づき、優先度 1 の「①田川・山田川連結区間」及び「②鬼怒川左岸区間」の整備に着手するなど新たな利用環境の創出に取り組んでいます。

c) 課題

整備着手した区間については引き続き整備を推進するとともに、河川管理者との協議等を実施し、未着手区間について具体的な整備手法や整備主体などを検討する必要があります。

(4) 目標Ⅳ「健康とエコ」に関する取組状況と評価

① 自転車モニター事業【重点事業】

a) 取組状況

市民や企業を対象としたモニター事業の実施に向けて、試行的に市職員を対象に自動車通勤から自転車通勤に切り替えるモニター事業を実施しました。

【試行的実施の概要】

- ・期 間：平成26年12月15日～平成27年2月20日（期間中の週3日以上実施）
- ・参加者：市職員4名
- ・使用した自転車：自転車は宮サイクルステーションのクロスバイク

b) 評価

2ヶ月間の短期間であるものの、参加者4名の体重・体脂肪率等の健康面において改善効果が確認されました。

また、スポーツバイクを使用したことで、その機能を体感することにより、参加者の意欲向上や事業の継続につながるとともに、長距離の場合でも、通勤時間において自動車通勤時と大きく変動しないため、ライフスタイルを変えず参加することができました。

表 自転車モニター事業参加者数・実施効果（実績値）

参加人数		4人	
実施効果	健康指数 （平均値）	体重	-2.1kg
		体脂肪率	-1.6%
		腹囲	-4.0cm
		中性脂肪	-6.5mg/dL
CO2削減量（参加者合計値）		154kg	

c) 課題

自転車は「健康や環境に良い乗り物」として認知されていることから、これを行動変容につなげるために、メリットを体感する取組やさらなる周知啓発などを検討する必要があります。

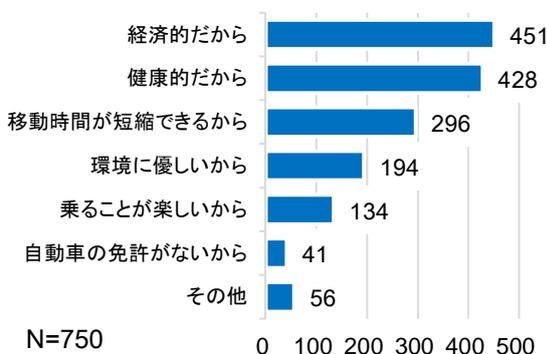


図 自転車を利用する理由

出典：平成26年市民アンケート調査

(5) 「自転車のまち宇都宮」の推進

① 「自転車のまち宇都宮」のPR

a) 取組状況

「ジャパンカップ」などのイベント機会を捉えたPRやメディアを活用したPRなどを通じて、市内外に対して、積極的に「自転車のまち宇都宮」のPRを行いました。

【主な取組内容】

○バイコロジーシンポジウムの開催

「ジャパンカップ」に併せて「バイコロジーシンポジウム 2012in『自転車のまち宇都宮』」を開催しました。

○サイクルモードへ出展

民間企業や県、他市町と連携し、栃木県の自転車を活用した取組を展示する中、本市の自転車マップや宮サイクルステーションのパンフレット等を広く配布しました。

○あんずの宇都宮日記（とちぎテレビ）に出演

とちぎテレビの「あんずの宇都宮日記」（「イブニング6」のワンコーナー）において、宇都宮市における自転車の取組を紹介。

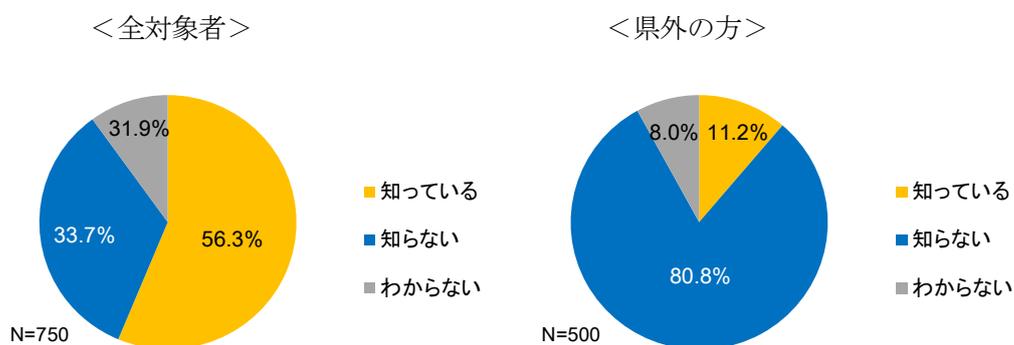


写真 サイクルモードへの出展

b) 評価

【市民アンケート】（「自転車のまち宇都宮」の認知度）

「自転車のまち宇都宮」に対する認知度については、市内の自転車利用者で約6割、県外の方で約1割とともに低い状況です。



c) 課題

依然として「自転車のまち宇都宮」に対する認知度が市内外において低いことから、市民と一体的に自転車のまちづくりを進め、さらなる市民意識の醸成を図るとともに広く市内外へのPRを図る必要があります。

2.3 前期計画の総括

(1) 評価指標の達成状況

① 活動指標

前期計画策定時に定めた、取組の進捗状況を評価する「活動指標」に対する達成状況は以下のとおりです。

目標	活動指標		計画策定当初	目標値 (H27)	達成状況 (H27)
安全	自転車走行空間の整備延長		9.6km	25.4km	21.7km
	交通安全教室	宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室 (年間)	年間 3 校	年間 16 校	年間 8 校
		スクエアドストレイト方式による交通安全教室 (年間)	年間 5 回	年間 6 回	年間 14 回
快適	自転車の駅の整備数		—	36 箇所 (累計)	44 箇所 (累計)
	鉄道駅周辺の駐輪場収容台数		7,912 台	8,512 台	8,692 台
楽しく	レンタサイクル	拠点数	4 箇所	14 箇所	7 箇所
		利用者数	31,000 人	41,000 人	45,707 人 (H26)
	モビリティセンター利用者数		—	モデル事業で設定	来館者数 5,692 人 (年間, H26) レンタサイクル利用者数 1,173 人 (年間, H26)
	自転車マップ配布枚数		—	実績値	7,200 枚
健康とエコ	エコ通勤実施企業数		4 企業	10 企業	13 企業
	自転車モニター事業参加者数・実施効果		—	実績値	4 人

② 成果指標

前期計画策定時に定めた、施策の効果を評価する「成果指標」の状況は以下のとおりです。

	計画当初 平成 23 年度	前期計画実績 平成 27 年度
交通事故件数 ^{※1}	629 件 (H22)	429 件
自転車利用者数 ^{※2}	10,061 台/2h (H21)	10,414 台/2h (H26)
CO ₂ の削減量 ^{※3}	—	5.6t-co ₂ /年
自転車の交通分担率 ^{※4}	20% (H12)	17% (H22)
市民の満足度 ^{※5}	29.6%	26.7%

※1 宇都宮市全体の自転車関連事故件数

※2 中心市街地 17 箇所 (定点) における平日朝 7:00~9:00 の自転車交通量の総和

※3 工業団地従業員を対象としたアンケート調査結果に基づく推計値

※4 国勢調査における通勤・通学時の自転車利用割合

※5 市政世論調査における「自転車を使いやすいまち」の質問に対する回答割合

(2) 前期計画の課題総括と方向性

目標Ⅰ「安全」に関する主な課題

- ・自転車走行空間の整備路線においては、これまで整備に至らなかった交差点部や狭隘な路線についても新たな整備手法を活用し、自転車走行空間の連続性を確保する必要があります。
- ・右側走行や信号無視など、ルール・マナーを守らない利用者が依然として見受けられることから、安全意識と安全走行がつながるよう、啓発活動のさらなる充実を図る必要があります。

目標Ⅱ「快適」に関する主な課題

- ・JR宇都宮駅周辺の駐輪場においては、駐輪ニーズが高いことから、定期利用の待機者が発生しています。また、バス停付近においては、利用状況や昨年度実施した調査結果を踏まえながら、効果的に整備を進め、自転車と公共交通の連携を図る必要があります。

目標Ⅲ「楽しく」に関する主な課題

- ・宮サイクルステーション（モビリティセンター）の整備に関して、さらなるサービスの向上が求められていることから、事業の拡充を図る必要があります。
- ・市内のサイクリングルートを設定した自転車マップ等で利用促進を図ってきましたが、より広域的な周遊に対するニーズもあることから、サイクリングルートのさらなる拡充に向け、自転車で都市間や観光地がつながるよう周辺自治体などとも協力し、広域的なサイクリングを楽しめる環境をつくる必要があります。

目標Ⅳ「健康とエコ」に関する主な課題

- ・自転車は「健康や環境に良い乗り物」として認知されていることから、さらなる周知啓発を行うとともに、メリットを体感する取組を実施するなど、自転車の利用を促進する必要があります。

総括課題

庁内外の関係者と連携しながら、重点事業を中心に個々の施策事業を推進し、事故減少による安全性の向上やレンタサイクルの利用者が増加するなど利用環境の向上を図ってききましたが、世論調査における自転車のまちに対する全体的な市民の満足度は、計画策定時とほぼ横ばいであったことから、さらなる取組や効果的なPR・情報発信が必要です。

今後の方向性

安全で快適に楽しく自転車を利用できる「自転車のまち宇都宮」のさらなる推進にあたっては、国の動向や本市の関連計画、市民ニーズなどを踏まえて、独自性の高い取組を進めていく必要があることから、新たな施策や強化すべき施策を明確し、事業を推進します。